

～企業のLGBTQに関する取り組みの評価指標～
「PRIDE指標」で5年連続最上位ゴールド受賞

2020年11月11日
 第20056号

日本トランスオーシャン航空株式会社（JTA、本社 那覇市、社長 青木 紀将）は、任意団体 work with Prideが策定する企業・団体などにおけるLGBTQなどのセクシャルマイノリティに関する取り組みの評価指標「PRIDE指標」において、5年連続で最上位の「ゴールド」を受賞しました。

JTAは、異なる経験や価値観を持つ多様な人財の活躍を推進し、常に変化し多様化していくお客さまニーズにお応えするとともに、沖縄へ訪れるすべてのお客さまがご滞在中安心して過ごされ、自分らしく輝けるよう、県内ALLY企業を増やす取り組みを継続してまいります。

■PRIDE指標とは

セクシャルマイノリティに関するダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援する任意団体 work with Prideが策定した、日本で初めての企業・団体などにおけるLGBTQなどのセクシャルマイノリティに関する取り組みの評価指標です。

「行動宣言」「当事者コミュニティ」「啓発活動」「人事制度/プログラム」「社会貢献/渉外活動」の5つの指標で採点され、「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」の3段階で評価されます。

■PRIDE指標について

<https://workwithpride.jp/pride-i/>



PRIDE指標「ゴールド」



関連するSDGs

【受賞にあたり評価された当社の取り組み】

- 社員啓発（Policy：行動宣言）
 - ・「多様な人財の活躍促進」に向けて、全社員向けにLGBTQを含むダイバーシティの重要性を啓発。
- CSR（Policy：行動宣言）
 - ・当社ホームページにて、LGBTQを含むダイバーシティに関するトップメッセージを表明。
- 社内外の体制づくり（Representation：当事者コミュニティ）
 - ・LGBTQに関する社内相談窓口を設置し、社内イントラネットにて公開。「セクハラ・虹色ホットライン」として社内へ周知。
 - ・沖縄県内企業へLGBTQ ALLYを募り、連携して勉強会や研修等の実施。
- LGBTQ ALLY企業5社担当者勉強会（Inspiration：啓発活動）
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、集合形式の勉強会・講演会を取りやめリモート形式での講演会を実施。
- JALグループとしての取組み（Inspiration：啓発活動）
 - ・10月よりJALグループとして、LGBTQ等性的マイノリティのお客さまが不快な思いをされないよう、空港・機内アナウンスの英語表現をジェンダーニュートラルな表現へ変更。
- 社内規定の見直し（DEVELOPMENT：人事制度、プログラム）
 - ・社内規定の一部見直しを行い、福利厚生（休暇・休職・慶弔金・転任・社宅）に関して対象者を現行の「配偶者」「家族」「子」に追加して「パートナー」を定義。
- イベント協賛（Engagement/Empowerment：社会貢献・渉外活動）
 - ・2013年に国内で初めて沖縄で開催されたLGBTQイベントの「ピンクドット沖縄」に対し、2014年より参画。2016年国内航空会社として初めて特別協賛として参画。以降、2020年も協賛継続。
 - ※9/19（土）ピンクドット沖縄主催「映画「ぼくが性別ゼロ」に戻るとき」への協賛
 - 11/28（土）ピンクドット沖縄配信イベント「ピンクドット沖縄2020」への協賛（予定）
 - ・沖縄県内・離島小中高校でのLGBTQ・性の多様性講演を行うレインボーハートプロジェクト okinawaへの協賛（輸送協力）。
 - ・その他、LGBTQ当事者ピアノコンサートやゲイ向けイベント（バレーボール大会など）への協賛。

以上